

卒業証書授与式 校長式辞

本日、令和元年度山形県立米沢商業高等学校第117回卒業証書授与式を挙げるにあたり、在校生と保護者の方々とこの場で一緒に祝うことができない、そして、大声で校歌を歌うことができない、さらに、時間を短縮し簡略化した卒業式をせざるを得ない状況を大変残念に思います。しかし、学校をとりまく現状を考慮してのことであり、卒業生のみなさん、ぜひ理解してください。

そのような中、本日の卒業証書授与式に保護者を代表して、今井玲彦様にご出席いただいております。誠にありがとうございます。

ただいま、卒業証書を授与しました116名の卒業生のみなさん、卒業おめでとう。みなさんは、平成29年4月に入学し、校訓「至誠」と「進取」の精神のもと、3年間の充実した高校生活を送り、新しい時代令和2年3月に卒業することとなりました。

令和最初の卒業生となるみなさんの1年間の活躍を振り返ってみますと、一昨日の表彰式のとおり、最近5年間で一番の成績の検定試験、5つの種目で全国大会出場を果たした部活動と、見事に文武両道を成し遂げました。後輩たちの模範となるものです。

さて、今回の新型コロナウイルス感染症のこと、そして、昨年日本各地の台風被害、本校では地下室が浸水したこと、全国的な暖冬、米沢では記録的に雪が少なかったことなど、かつて経験したことのない、想定外の出来事が立て続けに起きています。次に何が起こるか想像もつかない、次に何が起こっても不思議でない、そのような社会となってしまいました。今、そのことを改めて実感しています。

人は多くの人とのかかわりを通して、友達の優しさや温かさを支えに、仲間とのつながりを感じて、日々生きています。このことは、今後、社会がどのように変化しても、いくら科学技術が発達しても、私は変わらないことだろうと思っています。そして、困難な時だからこそ、人とのつながりを一層大切にしてほしいと考えます。卒業後もこの学年の絆をさらに強固なものとしてください。

卒業するみなさんへの餞として、校長室に掛けてある書の話をしていきます。

それは、明治、大正、昭和にわたって活躍した文人、武者小路実篤自筆の書です。そこには「龍となれ 雲自づと来たる」と書いてあります。「龍となれ 雲自づと来たる」とは、空高く昇っていく龍の周りには、自然と雲が集まってくる。つまり、ひたすら高い志を持って進む者には、いつの間にか支える人たちや応援してくれる人たちが集まってくる、という意味です。

「龍となれ 雲自づと来たる」

卒業生のみなさん、これからの社会を、志を高く持って堂々と、そして多くの仲間を巻き込みながら、龍のように昇ってください。

結びに、卒業生のみなさんは、117年の長い歴史と伝統のある米商の卒業生であることを誇りに持ち、そして将来のみなさんの活躍の場がどこであろうと、米商と、そしてこの地域と、何らかの形でつながり続け、地域の未来をつくってください。そのことを心から祈念して、式辞といたします。

令和2年3月1日

山形県立米沢商業高等学校

校長 佐藤 敬一